

5 地域公共交通をとりまく現状と課題

「2 地域の概況」、「3 地域公共交通の現状」、「4 災害と地域公共交通」で整理した内容を総合すると、本県における地域公共交通は「①県民の移動ニーズの変化・多様化」、「②移動ニーズに対応する輸送資源のひっ迫」という対立する2つの現状に直面しており、そのような中で、各地域の実情に応じた公共交通網を維持・確保していくことが課題となっている。

①県民の移動ニーズの変化・多様化

■地域の概況から・・・

- ・人口の二極化（熊本都市圏の一部では人口増加、ほとんどの他地域では減少）
- ・熊本市中心部では、大規模商業施設の開業等により、移動需要が増加
- ・過疎地域では、高齢化率が高い区域が広範囲に分布し、ドア to ドアで小回りの利く移動手段のニーズが増加
- ・免許返納に伴い、交通弱者が増加

■公共交通の概況から・・・

- ・鉄道、バスともに、特に過疎地域において輸送人員の減少が顕著
- ・需給バランスの悪い路線やサービスが存在

■新型コロナウイルスの影響・・・

- ・テレワークの推進等ライフスタイルの変化に伴う移動行動の変容

■災害の影響・・・

- ・鉄道の不通に伴う代替交通手段の必要性
- ・復旧・復興の段階に応じた移動ニーズの変化

②移動ニーズに対応する輸送資源のひっ迫

■地域の概況から・・・

- ・生産年齢人口の減少（特に過疎地域において顕著）

■公共交通の概況から・・・

- ・バス運転士不足の深刻化に伴うサービスの縮小
- ・タクシー事業者における乗務員不足
- ・航路事業者の減少とサービスの縮小
- ・車両・船舶や施設等の老朽化
- ・利用者減少等に伴う各公共交通事業者の厳しい収支状況
- ・行政負担額の増加、財源不足

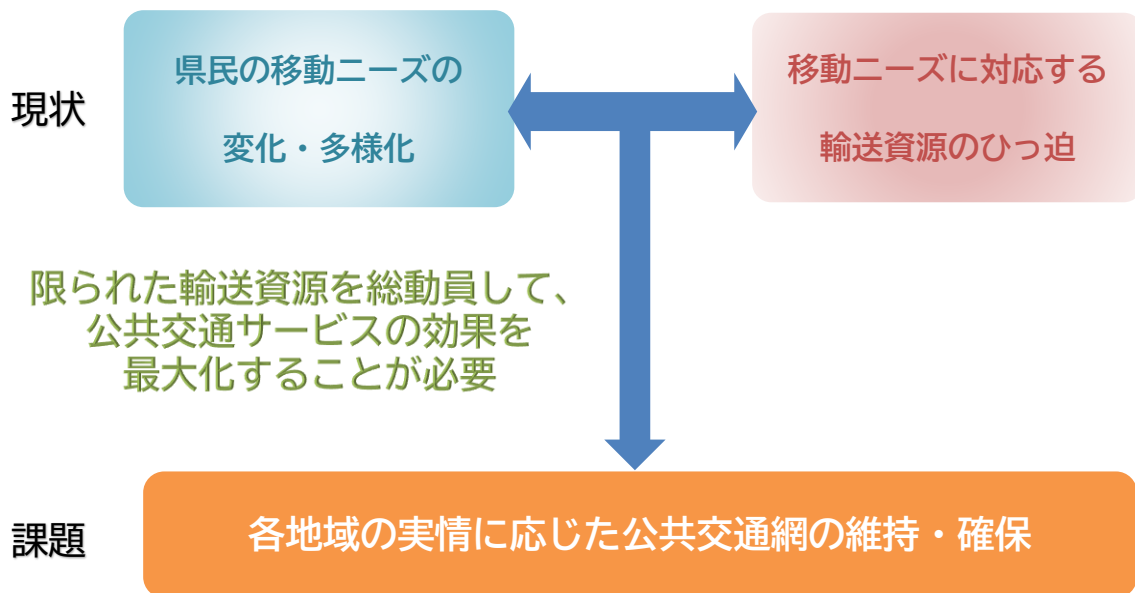
■新型コロナウイルスの影響・・・

- ・外出自粛等に伴うさらなる輸送人員の減少、収支の悪化

■災害の影響・・・

- ・車両、施設等への甚大な被害
- ・代替交通手段の確保等に伴う輸送資源のひっ迫

輸送資源がひっ迫する中、変化・多様化する県民の移動ニーズに対応しながら、地域の実情に応じた公共交通網を構築していくためには、「限られた輸送資源を総動員して、公共交通サービスの効果を最大化することが必要」であり、この認識を県、市町村、交通事業者等の地域公共交通の関係者が共有したうえで、適切な役割分担の下、取組を進めていくことが重要である。



なお、県内市町村がこれまで地域公共交通に関する取組を進めていくうえで、隘路となっている事柄についてアンケートを行った結果、主に以下のような点が挙げられている。

■市町村アンケートから得られた取組の隘路

【広域的な路線の取扱いについて】

- ・複数市町村による検討体制構築（及び運営）の難しさ
- ・自市町村の政策・施策を反映しづらい
- ・鉄道とバスが競合・並行する路線の取扱い
- ・事業者とのコミュニケーション不足

【コミュニティ交通について】

- ・財源が不足
- ・検討のためのノウハウ・人材が不足
- ・コミュニティ交通の担い手がいない（乗務員不足）
- ・地域の輸送資源を把握できていない